

法話概略【『私は正しい……』という概念を考える】

去る8月の後半に、京都・東本願寺において、『中高生奉仕団』（清掃活動や学びを深める集い）に出向して参りました。3日間の長い研修のテーマは、「私は正しい…」というもので、「正しい」という言葉の後の「…」点線部分にどんな記号が入るか？それぞれ考えを深めるという大変充実した研修会でありました。皆さんだったら、この「…」部分に何を入れますか？中高生の方々は「!」「?」「。」「!?」「♪」「(^_^)」「…」 「□」 等等入れていました。しかも、3日間で全く同じだった人も居れば、3日共入れる記号が変化し続けた方も少なくありませんでした。

そもそも「正しい」という定義は一つとは限りません。自分が正しいと思っている事も、他人にとってはそうでもなかったり…。自分の中ですら状況や情報が変われば、その正しさは揺れ動き変化します。この研修中に出された内容で、興味深いものがありました。以下の通りです。

今年に入って『ウクライナに千羽鶴を贈って疑問視された記事』が出ました。日本人にとって千羽鶴を贈るという場面は、高校生など部活の優勝のために贈ったり、はたまた入院中の学校の生徒に同級生みんなで作って送ってみたり…。そこには祈りだったり善意が溢れています。しかし、ところ変わればで、日本の中の鶴の存在は長寿のシンボルであったり童話があったりと良いものが多いのですが、諸外国では、鶴を良いものとは捉えない国だってあります。ましてや、記事の中では、「千羽鶴をもらうより、食料や薬が欲しいんだ」という声が起こっている」のだとありました。“良かれ”とっておこなった善意ある行為は素敵なことなのですが、善意のギャップとなって相手の求めているものにならなかつたら、正しいとは言えないですね。

他で言えば、インド人と左手で握手をすることは蔑む行為にも捉えられてしまうため、必ず握手は右手で行うなどが代表的ですね。ではここで、正しさについて光寿苑で考えてみましょう。

塩分制限等食事制限となっている方も多くいます。以前、看取り期になられた塩分制限されていたTさんに、「何か食べたい物ないですか？」と尋ねると、『しょっぱい味噌漬け食で(くで)!』と仰ったので、娘さんに相談してしょっぱい味噌漬けを作ってきてもらいました。しかもそれはお母様であるTさんの味を復元したものでした。それを娘さんが舐めさせてあげると、『すっけっ!(かなりしょっぱい)』って言って顔をしかめられました。あのしかめた表情にこそ生きている証があったと感じています。看取り期と言えども、最後の日までその人らしく生きられたら…。それを支える私たちの役目(ケア)だと思ふのです。塩分制限して10年生きられますよ…とか、そういう健康のための計画であれば、制限も必要です。けれども、看取りという告知を受けた時だからこそ、食べたい物を食べてもらいたいし、行きたいところに行かせてあげたい、会いたい人に会わせてあげたいし、少しでもそのような希望に添ってあげたいわけです。

まずは自分の正しいと思うものは大事にする事。そして、たとえ相手が自分と違う正しさの概念を持っていても、受け容れられなくてもいいから、そういう考えもあるんだなあと、一呼吸おいて受け止める事。状況や情報次第で変化する正しさの概念を、その都度、向き合ったり距離取ったりしながら、深め考え、受け取り直していけるように、努力して参りましょう。

その他連絡事項

- ① 本日はSさん 95歳の誕生日です。お祝いの言葉を掛けてあげてください。
- ② 長く休んでいましたSさんが来週から戻ってきます。午後からの4時間勤務となります。喜ばしい事です。よろしくお願いいたします。
- ③ 10月14日は予定通り『敬老の日』をお祝いします。詳細は別紙『主任者会議』ご参照下さい。

【講話、②、③ = 光寿会理事長 ① = 生活相談員】